

令和5年度 日南市立桜ヶ丘小学校 学校運営協議会評価書

■ 本年度の重点課題 … 1 学力の向上 2 心の教育の充実 3 健康・安全の充実 4 家庭・地域との連携 5 働き方改革の推進

評価基準 「4」 「たいへんよく取り組んでいる」(90点以上) 「3」 「よく取り組んでいる方である」(70～89点)
 「2」 「少し改善(努力)することがある」(50点～69点) 「1」 「まだ改善(努力)をしなければならない」(50点未満)

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	評価(平均値)		学校関係者評価コメント
			自己評価	委員評価	
1 学力の向上	① 一人一台のタブレット端末等のICT機器を有効に活用することで、子ども達にとって分かりやすい授業となるような工夫がなされている。	☆ 年間を通して校内研究(主題研究)において学力向上を意識したICT研修を推進し、相互参観授業を実施(タブレット端末、ロイノート)の活用した。 ☆ 「めあてとまとめの整合性」を意識した取組を推進し、習熟の時間を確保した。 ☆ 朝のぐんぐんタイムの充実(1年生からの復習プリントの活用)を図り、学力の向上を図った。特に5・6年生は、全国学テ等の過去問や教育事務所のプリント等の活用も図り、問題に対応する能力を高めた。	職員14名	委員5名	○ タブレット端末は有効活用のための研修や授業などでの積極的な活用等、定着が実感できる。一方で鉛筆を持って「書く」ことや、紙で積み上げていく達成感など、アナログ的な良さを生かしながら何が最適かを常に考えていただきたい。また、ICT機器を通じたコミュニケーションに加え、人と人とのつながりも大切にしながら使ってほしい。授業中の児童の様子については、少人数という利点を生かしながら、一人一人を意識した授業や積極的に発言する機会もあり、一定の評価ができる。読書活動については、司書等とも連携し定期的に朝の読み聞かせの機会があるが、児童の反応がとても良いため、回数を増やすなど、本を通じた外部連携を強化すると良い。 ○ 発表するときの声が小さいように思われる。大きな声ではっきりと自信をもって発表ができることよい。 ○ タブレット端末が有効に活用されている。授業参観でも拝見したが、クラス全員がリアルタイムで同じ内容を見られることで、授業の進捗がスムーズに行われていると感じた。また、画像・動画を使うことで言葉では表現しにくいことも一目瞭然と理解しやすいと感じた。それにより、子どもたちも興味を持っていると感じる。 ○ タブレット端末もよく使いこなし、少人数のよさを生かし、先生の目が行き届いている。 ○ タブレット端末活用により、黒板やプリントでは得られない色彩豊かな画面で、静止画や動画などを使用され、興味を持ちながら学ぶことができている。子どもたちの授業を聞く態度は素晴らしいものの、もう少し積極的な発言があればさらに良くなると感じた。
	② 授業中の子どもたちの発表の仕方や話の聞き方等は的確に指導されており態度も良い。	☆ 授業のルール「学習態度の指導」を作成し、授業前、授業中、授業後における7つのルールを徹底することで、学習態度の醸成を図った。	3.0	3.4	
	③ 子どもたちの読書活動を推進するための手立てがなされている。	☆ 朝の読書活動、読み聞かせの時間を設定し、図書司書と連携して読書に親しむ環境づくりに努めた。 ☆ 「読書通帳」を活用し、家庭と連携(家読、読書だより等)して読書教育の推進に努めた。			
2 心の教育の充実	④ 子どもたちへの挨拶に関する指導は的確で、子ども達の挨拶も良い。	☆ 学校や地域における「元気」な挨拶の励行を図るために、重点月間を設定し、全校集会において具体的な指導を実施した。挨拶についての良い行いを投稿するための「挨拶ポスト」を設置した。 ☆ 教師自らが児童や保護者等に気持ちの良い挨拶を行い、率先垂範に努めた。			○ 充実した学校生活を送る上で、その根底となるものであるため、場に応じた自然な挨拶や心のアンケートによる状況の把握、少人数という特徴を生かした一人一人への目配りなど評価できるものである。家庭の状況が大きく影響することから、PTA組織ともよく連携しながら進めていただきたい。 ○ 積極的に大きな声であいさつができている。表情も非常に良い。 ○ あいさつに関しては、全体的には良く取り組まれていると感じる。校外においては、知らない人に近づかない、声をかけないということ、大人側も迷うことがあるが、家の前を通るときには積極的に声をかけている。登下校の雰囲気はとても明るく見える。命を守る教育に関しては、小学生のうちから、徹底して行ってほしい。 ○ 元気よくあいさつをしている。 ○ 校内でも、校外でも、気持ちの良いあいさつをする児童が多い。高学年の子どもたちが先手のあいさつをしている姿をよく見かける。クラスの雰囲気も良く、男女関係なく楽しそうにしている姿を見る。困っている仲間がいると、率先して声をかけている姿は素晴らしい。
	⑤ お子さんの学級の雰囲気は明るく、楽しそうに過ごしている。	☆ 月1回「心のアンケート」を実施し、児童の悩み等を把握し、いじめ等の早期発見に努めた。 ☆ 学期1回教育相談を実施し、児童の悩み等の解決に努めた。	3.2	3.6	
	⑥ 命を守るための指導(道徳教育等)が適切になされている。	☆ 「日南市レインボープラン」に従い、道徳・学活の時間を中心に、計画的に命の教育(性教育含む)を実施した。 ☆ 「保護者引き渡し訓練」も含む各種避難訓練を実施した。			
3 健康・安全の充実	⑦ 日常的な健康観察と生活指導を実施することで、基本的な生活習慣の確立がなされている。	☆ 委員会とも連携し、日常から健康についての意識を高く持てるような教育実践を目指した。			○ 外遊びが減少しているが、休み時間等に運動場に出る機会を増やそうとしておりとても良い。夏場は特に熱中症の懸念があるため、外遊びが限定されるが、春過ぎからの暑熱順化を意識した暑さへの耐性作りも重要と考える。視力、虫歯、朝食は、生活習慣の抜本的な改善が必要となり、家庭生活がメインとなりハードルが高いが、情報発信や研修会等により継続して取り組んでいたが、 ○ 感染症の対策等で大変だと思うが、対応が早く安心している。 ○ 1・2月に特に気を付けてほしい。ノロウイルスにも注意してほしい。 ○ 休憩時間等、運動場で元気よく遊んでいると聞いて安心した。まずは小学生なので、たくさん遊んでほしい。食育に関しては、学校では栄養管理された給食があるが、家庭ではどうか。子どもも好き嫌いを言うため、偏った食生活にならないかが心配である。 ○ 運動会時、元気な姿が見られた。 ○ 季節に合った運動への取り組みがなされ、また、保健だよりや、保健室前の掲示物等で生活習慣等への啓発がなされている。
	⑧ 体力づくりにチャレンジする場や時間を設定し、日常的に体力向上に取り組む指導がなされている。	☆ 外遊びを推奨するため、学級担任や係活動における呼びかけを実施した。 ☆ 体を動かすことが楽しいと思える授業を目指し、体育が専門の教員(教務主任等)による実技指導を実施した。	3.2	3.4	
	⑨ 保健や食育に関することについて、保護者への啓発がなされている。	☆ 家庭と連携を図った生活指導の充実を図るため、「保健だより」「食育だより」を発行し、学校保健委員会を通じて家庭への啓発を図った。 ☆ 肥満傾向にある児童へ肥満解消の取組及び歯治療率向上に向けた取組を実施した。			
4 家庭・地域との連携	⑩ 家庭や地域と連携した取組を発信している。	☆ 学校支援地域コーディネーターと連携を図った取組を推進し、桜ヶ丘地区自治会との米作りの実践(地域人材活用)等を行った。 ☆ 油津小、油津中との三校合同研修等の連携による教育活動を推進し、9年間を見通した児童・生徒の育成を目指した(3校合同研修は中止)。			○ 地域が学校に協力したいと思えるように、地域への積極的な働きかけや地域コーディネータを活用した連携等を引き続きお願いしたい。稲作体験は市内実施校が減る中、本校での貴重な経験、地域との連携の機会となっているため、今後も実情に配慮しながら継続してほしい。学校ホームページでの積極的な発信はとても良い。 ○ 学校だよりで情報を得ている。学校への地域参加が今ひとつという所があり、検討の余地がある。 ○ 学校だよりの発行等で、SNSに不慣れた地域の方も学校の状況が分かる。管理職も油津地域協議会への参加、青パトへの協力をいただき、大変ありがたい。 ○ 学校だよりを毎月見ている。毎年イルミネーション装飾へ参加してもらっている。 ○ 学校と家庭は学級通信等で必要な情報を知ることができるが、地域は月1回の学校だよりのみである。学校HPを活用して、特別な行事だけでなく普段の学校生活の今を知りたいとの声を聞く。
	⑪ 学級や学校は、必要な情報を家庭に発信している。	☆ 「学校ホームページ」の更新、「学校だより」の発行等による情報の発信に努め、緊急時等の「桜Eメール」での情報提供を実施した。 ☆ 油津地域協議会をはじめ油津地区における集会等での情報の発信と収集に努めた。	3.3	3.2	
	⑫ 昨年度の学校評価を活かした学校運営がなされている。	☆ 学校運営協議会による評価等、各種評価による成果と課題を明確にして学校運営の改善に努め、重点目標の設定を行った。			
5 働き方改革の推進	⑬ 「日南市小中学校における教師の勤務時間の上限に関する方針」の徹底を図っている。	☆ 役割達成度評価における目標設定を実施し、中間ミーティング、評価面談における啓発を実施した ☆ 帰庁時間の意識付けを図るため、教頭が積極的な声かけを行い、帰宅時間を意識した業務改善に努めた。			○ 教職員の負担軽減に向けて、業務の整理やSSSの活用などに取り組んでいるため、職員の心身の充実に向けて今後も重要な課題として継続的に取り組んでいただきたい。 ○ 努力している事が伝わってくる。先生方が疲れを残さずに、元気に子どもたちへの指導をお願いしたい。 ○ 教職という職業柄、人から見る目が厳しいと思うが、一人の人間として他の職業人と何ら変わりはない。職務は大変だと思うが、休日には十分な休養を取ってリフレッシュしてもらい、学校では児童とたくさん触れあってほしいと願う。 ○ SSSの活用や地域人材の活用など、いろいろ工夫されていることだと思うが、まだまだ先生方の負担は多いのかと思う。
	⑭ 業務負担の軽減を図ることで、授業改善及び児童と向き合う時間の確保に努めている。	☆ スクール・サポート・スタッフ、ICT支援員の積極活用により業務量の削減を図り、児童と向き合う時間の確保に努めた。 ☆ ICTの活用(校務支援システム等)促進による業務の効率化を図ることで会議の時間を短縮し、児童と向き合う時間の確保に努めた。	3.2	3.2	

校長所見	<p>【全体所見・令和6年度の方策】</p> <p>1 学力の向上 ○ 主題研究においてICTの積極的な活用に取り組んだ結果、特に、特別な配慮を要する児童の支援ツールとしての有効性を実感することができた。次年度は、習熟ソフトの有効活用も含めた習熟段階における指導の充実を図ることで、学びに向かう力を育成し、ウェルビーイングの実現を目指す。</p> <p>2 心の教育の充実 ○ 毎朝の出席状況確認を丁寧に行うと共に、生徒指導推進会を充実させることで、児童の実態把握及び共通理解に努め、問題の早期発見、迅速な対応を行うことができた。全校集会講話「校長先生の挑戦」を通して、児童に、日々の学校生活をウェルビーイングの視点で捉えさせると共に、同じ視点で一部の行事等に改善を加えることができた。次年度は、授業も含めた全教育課程においてウェルビーイングの視点による見直しと改善を図る。</p> <p>3 健康・安全の充実について ○ コロナウイルス感染症の5類移行もあり、様々な活動が以前の形に戻りつつある中、本年度はインフルエンザによる学級閉鎖等もあった。引き続き感染症対策に注力すると共に避難訓練等も含めた安全教育の細やかなアップデートに心がける。また、メディアに関わる問題については、学校保健委員会を活用し、全児童・保護者参加の親子学習教室を開催することができた。今後も様々な手立てを工夫しながら継続して啓発を行っていく。</p> <p>4 家庭・地域との連携 ○ 学校だよりやHPに加え、メディアへの働きかけや、地区民児協への参加等により、学校経営ビジョンの積極的な浸透を図った。平和学習においては、学校支援地域コーディネーターの創意も組み入れ、学校・地域・コーディネーターの三者連携による活動が実現した。今後も可能性を探りたい。</p> <p>5 働き方改革の推進 ○ 会議の削減、ICT活用によるペーパーレス化に加え、退庁時の施錠等についても、固定化することなく分担して行うことができた。また、得意分野を生かした一部教科担任制を導入することにより、受け持ち時数の多い上学年において教材研究に係る量的、質的な負担軽減を行った。今後も量のみでなく質に着目した働き方改革を推進していく。</p>
------	---

